

小学部 国語科 学習指導案

日 時：令和4年1月29日(土)

9：30～10：15

場 所：さくら組教室

対 象：Cグループ 7名

授業者：赤嶺 一字 半田 郷子

1 題材名『サイコロトーク』で、「いつ・誰・どこ・何をした」などの視点を入れたり、主述や構成、テーマに沿った複数の事柄や事例をつなげることを考えたりして、自分がしたことや伝えたいことを話そう

2 題材設定の立場

(1) 題材について

児童観	<p>本グループは、3年生2名(H・I)、5年生2名(M・O)、6年生3名(P・Q・R)の計7名の児童が在籍している。授業中に教師が感想を求めると、自ら挙手して発表する姿や友だち同士で意見を伝え合う姿が多く見られる。また、課題のわからないところを教え合ったり、一緒に課題を解決したりすることができる児童たちである。一方で、個別の学習では、はじめて取り組む学習内容や難しい課題になると、すぐに「わからない」と言い、取り組んでいた活動を止める児童もいる。しかし、このような場合も友だちと話し合うことで、挑戦しようとする姿が見られている。</p>
系統観	<p>本グループは、小学部2・3段階と小学校3、4学年の「聞くこと・話すこと」の内容を扱う。</p> <p>①小学部2段階 (I)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">話す物や動作などのことばの種類にふれ、自分がしたことを「誰・どこ・何をした」など、自分がしたことについて伝えたいことを話す</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">話す物や動作などのことばの種類にふれ、自分がしたことを「いつ・誰・どこ・何をした」など、自分がしたことについて伝えたいことを話す</div> </div> <p>②小学部3段階 (H・M・O・P)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて話す</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">話したい内容を考えて、主語と述語を対応させて話す</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序を考えて話す</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">物事のはじめと終わりの情報の関係について理解して話す</div> </div> <p>③小学校3、4学年 (Q・R)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序を考えて話す</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の意見を伝えたい事柄の情報と情報の順序を考えて話す</div> </div> <p>上記のように、3つの指導内容の層でなるグループであり、前題材では左の内容まで到達している。そこで、学習指導要領と本校の指導内容具体表から、次に指導する内容を設定した。</p>
指導観	<p>本題材では、友だちや教師との対話を通して、相手の話を視点に沿って聞き取る仕方や、自分の伝えたいことがより相手に伝わる話し方を身につけてほしいと考える。そのために、友だち同士で話を聞き合い「いつ・誰・どこ・何をした・様子・気持ち・理由」などの視点を入れて話し、内容を詳しく話せたか視点ごとに話を聞けたかを確認できるようにする。また、「はじめ・中・終わり」の構成で話すことができるように、事例メモをはり替えることで、よりよい伝え方が身につくようにする。また、学習活動の振り返りができるように、動画を撮って見合うようにする。話す内容を構成する児童は、話す事柄と事例をつないだり、順序を表したりすることばを使うことや、「～です・～ます」の敬体で話すこと、助詞の使い方も配慮的に扱う。</p>
教材観	<p>『サイコロトーク』は、サイコロに書かれたテーマに沿って、自分の伝えたいことを話したり、その後の質問に応じたりする教材である。「いつ」の視点を話す、主述を整えたり、構成を考えたりして話す場面、自分のことの見聞きしたことなど、児童の興味関心に沿った話題を設定することができる。題材が進むと、テーマ自体も児童たちで設定することも期待できる。また、質問タイムを設けることで、上手に話した点やより上手に話すためのポイントなどについて、対話しながら学習することができる。この教材を通して、友だちとの対話を楽しみながら「いつ」などの視点を入れる、主述や構成を考えるなどして、詳しく話すことができるようになってほしい。</p>

(2) 児童の実態と指導の方向

児童の実態	
I	<p>【一般的な実態】 CA：8 自閉症スペクトラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 発語が不明瞭であるが、「トランプを貸してください」など、2語程度で自分のしたいことを要求する。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題が順番に書かれたワークシートを確かめたり、課題が終わったら次の課題をボックスに取りに行ったりすることで、落ち着いて取り組むことができる。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の解き方がわからないとき、教師に「ヒントをください」と言って、解けるまで課題に取り組む。

	<p>【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・「誰・どこ・何をした」の内容を示すイラストや文字カードを、対応する視点ごとのケースに入れたり、自分のしたことの写真を見て「僕がプレイルームで本を読む」と話したりする。 ・活動をしたのは「いつ」と問われて日にちを答え、「算数の後は何」の問いに「じゃんけん」と答える。 <思考力・判断力・表現力等> ・教師に「宿題を提出するのはいつですか」と問われたとき「●月■日」と答え、「●月■日のいつですか」や「朝ですか、昼ですか、夜ですか」の問いに答えたり、答えなかったりする。</p>
I	<p>【指導の方向】 日にちや時刻、順序、朝昼夜などの具体的な活動の「いつ」を教師に問われると、ほとんどが日時を表すことばで答える。順序や朝昼夜のことばの意味を理解し、「いつ」を問われて答えようとする姿から、順序や朝昼夜のことばを使う状況がわかり、その状況によって判断すれば、適確に話したり聞いたりできるのではないかと考える。本題材では、日にちや時刻に加えて、～の後（前）などの順序や朝昼夜などの日常生活で使っている「いつ」を取り扱いながら、自分のしたことの学校生活や行事の写真を見て、「いつ・誰・どこ・何をした」の視点で話したり、聞いたりする学習に取り組む。写真やイラスト、文字カードを、ケースやボードを使って、ことばの意味を理解することから取り組み、「何日のいつですか？」などや、さらに「朝」「～の後（前）」などと詳しく話ができるようになってほしい。</p>
M	<p>【一般的な実態】 CA：11 自閉スペクトラム症 ・発語は不明瞭であるが、自分の好きなことを友だちや教師に話すことが多い。 【指導方法に関わる実態】 ・「①プリント②ポイントのたしかめ③発表」などと、同じ活動内容の流れにすると、課題が終わるごとに自分から次の課題プリントを取りに行き、活動が終わるまで落ち着いて課題に取り組む。 <学びに向かう力・人間性等> ・友だちの回答を見て答えたり、教師の仕方を見て同じようにしたりする。 【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・見聞きしたことを大まかに話すか、テーマ以外の内容になって相手に伝わらないことがある。 ・自分のしたことを、インタビュー形式で1つずつ「いつ・どこ・誰・何をした・順番・様子・気持ち・理由」視点を確かめると、視点を入れて話したり、視点ごとの教師の問いに答えたりすることができる。 <思考力・判断力・表現力等> ・休憩時間に「ワープロをしたいのでパソコンを貸してください」などと教師に言う。 ・自分の好きなことを話した後に相手から、「何（誰）の話ですか」などと聞き返されることが多い。 【指導の方向】 好きなことをテーマに話した後、教師に「何（誰）の話ですか」と問われると答えるので、話の内容の全体と中心を確かめて話すことで、テーマに沿って相手にわかりやすく話せるようになることを考えた。本題材では、教師や友だちの話を聞いて、「理由・状況・様子・気持ち」から話の中心を確かめるために、ワークシートや話した内容を文章にしたものを使い、インタビューの時間を設定する。また、情報の補助としてタブレット端末を使って友だちと一緒に確かめることで、話の全体を整理して伝えたいことの中心を確かめて、「理由・状況・様子・気持ち」から話の中心を選び、テーマに沿った内容を話してほしい。</p>
O	<p>【一般的な実態】 CA：10 ・自分のことを友だちの前で発表するとき、声が小さくなりいつもはできていることも「できない」と言うことがあるが、聞き手に質問されると答えることが多い。 【指導方法に関わる実態】 ・課題プリントを解くとき、あらかじめ教師に課題プリントの枚数を提示され、解答すると丸がもらえるなどのゲーム形式にすると、課題プリントに続けて取り組むことが多い。 <学びに向かう力・人間性等> ・宿題や必要なものを忘れ、友だちや教師にことばをかけられてから準備や片づけをすることが多い。 【本題材に関する実態】 <知識及び技能> ・「人・もの・動作・場所・時間・様子・気持ち」の提示された視点シートを見て自分がしたことを話した後、教師に理由を問われて「寒かったからジャンパーを着ました」と答える。 ・週末したことを友だちや教師に話すとき、「ドライブ美味しかった」などと言い、「誰（何）が何（どう）した話ですか」と聞き返されることが多い。</p>

O	<p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話の登場人物が一人であれば主述を整えて話し、主述に関する教師の問いを聞いて答えるが、二人以上になると主述に対応せずに話し、「誰がどうした話なの?」と聞き返されることが多い。
	<p>【指導の方向】</p> <p>話したい事柄のテーマが絞れていなかったり、相手に伝わるよさを十分に経験できていなかったりして、話す内容をまとめることができていない。そこで、話の内容の全体と中心を確かめることで、テーマに沿った内容で相手にわかりやすく話せると考えた。本題材では、教師や友だちの簡単な話を聞き、その内容の全体と「理由・状況・様子・気持ち」から中心を確かめるように、ワークシートや話した内容を文章にしたものを使ったり、内容とテーマが整合しているかを聞き手が確かめたりしていく。また、情報や記憶の補助として動画を使うことで、話の内容の全体と中心を確かめて、「理由・状況・様子・気持ち」から話の中心を選び、テーマに沿った内容を話してほしい。</p>
H	<p>【一般的な実態】 CA: 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をするとき、「～です」や「～ます」などと、丁寧なことばを使う。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめての課題にわからないと言うことが多いが、一度仕方を覚えると次からは自分で取り組む。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよいところに気づいたり、教師に評価されたりしたことを、学習や生活の中で自ら生かし、友だちや教師の話聞いて自ら感想を伝えたり、わからないところを質問したりする。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの段落で構成された説明文を「はじめ・中・終わり」で分けて読んだ後、「はじめ」に対する教師の問いに、提示されたキーワードを手がかりして「中」で説明された内容を使って答えることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された「人・もの・動作・場所・時・様子・気持ち」の視点を見て話すとき、「私は学校の給食で豆腐やわかめ、油揚げの入った味噌汁を食べておいしかったです」などと話し、視点ごとの問いに答える。
	<p>【指導の方向】</p> <p>見聞きしたことを提示された視点で話したり、聞かれた質問に答えたりできるが、友だちの前で説明や発表をするとき、話す内容がまとまらずに聞き手に伝わらないことがある。「いつ、どこ、何をした」など話す視点がわかると、次からは自分で視点を入れて話をするので、段階的に話す視点を確認めると、話す内容を構成していくつかの事例に関連づけて話すことができるのではないかと考えた。本題材では、「食材を美味しく食べる工夫」のテーマで、図書やインターネットを活用して事柄の関連図を作成し、食材を美味しく食べる工夫、作り方、食品から話す事柄を選び、それに関連する事例を付箋に挙げて整理していくようにする。そして、内容が相手に伝わるかを友だちと確かめ合い、「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で相手に伝えたい事柄をいくつか選んで、テーマと関連づけて話してほしい。</p>
P	<p>【一般的な実態】 CA: 12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生と遊ぶとき、相手の歩く速度に合わせてたり、遊び方を知らせたりする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方や手順を視覚的に確かめるワークシートを毎日繰り返すことで仕方を覚える。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難易度の高い友だちの問題を見て、同じ問題を解けるようになりたいと言い、わからないことがあるとき、自ら教師に「教えてください」と伝える。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの段落で構成された説明文を「はじめ・中・終わり」で分けて読んだ後、提示されたキーワードを手がかりに、「はじめ」に対する教師の問いに、「中」で説明された内容を答えることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の出来事を話すとき「人・もの・動作・場所・時・様子・気持ち・順番」などの視点シートを見て、「3時間目に小学部のみんなで、体育館でサッカーをしました。一番難しかったのはパスです。今度の体育でパスの練習をがんばりたいです」などと話す。
	<p>【指導の方向】</p> <p>遊びの司会でルールや仕方を説明するとき、教師が「前はどのようにした」「どっちがよい」などとヒント伝えると、自分の考えを伝えることができる。また、相手に伝えるためにどのように話したらよいかを考える姿があるので、テーマに沿って事例に関連づけて話すとき相手に伝わるような話し方ができると考えた。本題材では、「食材を美味しく食べる工夫」のテーマで、図書やインターネットを活用して事柄の関連</p>

P	<p>図を作成し、美味しく食べる工夫、作り方、食品から話す事柄を選び、それに関連する事例を付箋に挙げて整理していくようにする。そして、内容が相手に伝わるかを友だちと確かめ合い、「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で相手に伝えたい事柄や事例をいくつか選んで、テーマと関連づけて話してほしい。</p>
Q	<p>【一般的な実態】 CA:12</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちの話を聞いて、必要なことは自らメモをする。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れや課題の解き方が一度わかると、次々に自ら課題に取り組む。 ・修学旅行のしおりを、インターネットやタブレット端末で調べて、文章や表、イラストを作成する。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちの話を聞くとき、教師からの聞く姿勢に意識が向くことばを聞くと、手をひざに置き、話し手の方へ顔を向けて話を聞きはじめる。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの形式段落で構成された説明文を「はじめ・中・終わり」で分けて読むとき、「はじめ」に対する教師の問いに、「中」で説明された内容を答えることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人・もの・動作・場所・時・様子・気持ち・順番」の視点シートを見て「今日Cグループのみんなと遊びの時間に教室でゲームをしました。はじめに道具の準備をして、次にみんなで集まってゲームをして、最後に片づけをしました。マスを進めたりルーレットを回したりしたことが楽しかったです」と話す。 <p>【指導の方向】</p> <p>友だちや教師に冗談を交えて話をしたり、好きな芸能人や歴史上の人物の口調をまねて話したりするなど、相手に対して話がおもしろくなる工夫をして話すことができる。一方で発表になると、「いつ・どこ・誰・何をした・様子・理由・気持ち」の視点で話すが、話す内容が事柄の羅列になり、話のテーマや事柄、事例の関連性がなく、一番伝えたいことが相手に伝わらないことがあるので、テーマに沿って適切な事柄や決められた時間の中で、整理して話すことを身につけてほしいと考えた。本題材では、図書やインターネットを活用して事柄の関連図を作成し、食材や味、調理方法、食感、見た目などからテーマを決めて、それに関連する事例を付箋に挙げていくようにする。「中」のいくつかの事例については、比較や順序などを、枝状や矢印状で事例を関連づけて並び替えるようにして、内容が相手に伝わるかを友だちと確かめ合い、「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で話す内容をいくつかの事例と関連づけて話をしてほしい。</p>
R	<p>【一般的な実態】 CA:11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭で見聞きした知らないことばを調べたり、その日の出来事を日記に書いたりしている。 <p>【指導方法に関わる実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度仕方がわかると、次から同じ仕方で取り組む。 ・パソコンなどの基本的な操作をして、3択問題を作成して出題し、調べた答えを友だちに伝える。 <p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部合同の遊びやお楽しみ会で、自ら司会をしたり、プログラムを作ったりする。 ・将棋や謎解きをするとき、友だちや教師に、難しい課題を解けるようになりたいと言う。 <p>【本題材に関する実態】</p> <p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いついた順に話したり相手に伝える情報が不十分だったりして、相手に伝わらないことがある。 ・8つの段落で構成された説明文を「はじめ・中・終わり」で分けて読むとき、「はじめ」に対する教師の問いに、「中」で説明された内容を使って答えることができる。 <p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の感想発表で、「11月25日にさくら組で中学部と高等部のステージ発表を見ました。その中で印象に残ったのは中1の発表です。理由は、先輩の縄跳びが、今までできなかったのに上手できるようになったからです」と話す。 <p>【指導の方向】</p> <p>様々なことを意欲的に調べて、将棋や謎解きなど推測することも好きなことから、話すテーマの絞り方や、内容を並べ替えて構成を確かめることで、相手に伝わりやすく話すことができると考えた。本題材では、図書やインターネットを活用して事柄の関連図を作成し、食材や味、調理方法、食感、見た目などからテーマを決めて、それに関連する事例を付箋メモに挙げていくようにする。「中」のいくつかの事例については、比較や順序などを枝状や矢印状で事例を関連づけたり並べ替えたりして確かめるようにする。そして、内容が相手に伝わるかを友だちと確かめ合い、「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で話す内容を事例と関連づけて話をしてほしい。</p>

3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している

題材目標		学習指導要領の扱う内容
I	知	自分のしたことを「何日」「何時」「何の後(前)」「朝(昼夜)」などと教師に問われたとき、どのような「いつ」を問われているかがわかり、「～日」「～時」「～の後(前)」などと答える
	思	『サイコロトーク』で、「いつ・どこ・誰・何をした」の視点で話すとき、友だちや教師から「～日のいつ」などと問われて、さらに限定された「いつ」について問われていると考え、「いつ」を表すことばを選び、問いに答える
	学	ことばがもつよさを感じるとともに、ことばでのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う
M・O	知	教師や友だちの簡単な話を聞いてどのような話か問われたとき、話題の全体と中心がわかり、何についてのどのような話を答える
	思	『サイコロトーク』で自分のしたことや見たことを話すとき、サイコロの目のテーマから話題の全体を考えて、「理由・状況・様子・気持ち」などから話題の中心を選び、テーマに沿った内容を話す
	学	ことばがもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う
H・P	知	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき、相手に伝わる内容をいくつか挙げて「中」を話すより相手に伝わりやすいことがわかり、ワークシートの「中」に事柄を並べて、それを見て話す
	思	『サイコロトーク』で食材を美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき、「中」で話す美味しく食べる工夫、作り方、食品から相手に伝えたい事柄をいくつか選んで、テーマの食材と関連づけて話す
	学	ことばがもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う
Q・R	知	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき、相手に伝わるいくつかの事例を関連づけて「中」を話すより相手に伝わりやすいことがわかり、事例メモを相手に伝わるように並べて話す
	思	『サイコロトーク』で食材を美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき、「中」で話す内容を、食材や味、調理方法、食感、見た目などから相手に伝えたい視点を考え、その視点に合ったいくつかの事例を選んで関連づけて話す
	学	ことばがもつよさに気づくとともに幅広く読書をし、国語を大切に思いや考えを伝えようとする態度を養う

4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載

5 本時案(全12時間の8時間目)

(1) 題目 『サイコロトーク』で、問いに応じて日にちや時刻、順序のことばを選ぶ、話の全体から中心を選ぶ、食べものの見た目の視点に事例を関連づけるなどして、自分がしたことや伝えたいことを話そう

(2) 本時のめあてと評価規準

観点別の本時のめあて		評価規準
I	知	自分のしたことについて教師に提示された写真やイラストを見て「何日」「何時」「何の後(前)」などと問われたとき、どのような「いつ」を問われているかがわかり、日にちや時刻、順序を答える
	思	『サイコロトーク』で「いつ・どこ・誰・何をした」の内容が含まれる写真やイラストを見てその内容を話すとき、友だちに「いつ」と問われて、日にちや時刻、順序などの「いつ」を表すことばを選んで問いに答える

M・O	知	教師や友だちの簡単な話を聞いてどのような話が問われたとき、話題の全体と中心がわかり、話題の全体と中心が何についてのどのような話が答える	何についてのどのような話と答える
	思	『サイコロトーク』で自分が見たことを話すとき、サイコロの目のおいしい・かわいい・びっくり・笑ったのテーマから話題の全体を考えて、「理由・状況・様子・気持ち」などから話題の中心を選び、テーマに沿った内容を話す	話題の全体を考えて中心を話す
H・P	知	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき、相手に伝わる内容をいくつか挙げて「中」を話すより相手に伝わりやすいことがわかり、ワークシートの「中」に事柄をいくつか並べ、それを見て話す	事例メモをいくつか並べて話す
	思	『サイコロトーク』で食材を美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき、美味しく食べる工夫、作り方、食品から相手に伝えたい事柄をいくつか選んで、麦と関連づけて話す	事柄をいくつか選び、麦と関連づけて話す
Q・R	知	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき、相手に伝わるいくつかの事例を関連づけて「中」を話すより相手に伝わりやすいことがわかり、事例メモを相手に伝わるよう並べて話す	いくつかの事例メモを並べ、関連づけて話す
	思	『サイコロトーク』で美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で話す内容を、調理方法の視点に関連づいていると考えて、視点に合ったいくつかの事例を選んで関連づけて話す	調理方法の視点に合ったいくつかの事例を選んで関連づけて話す
全学		A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価する	

(3) 場面設定と準備物

場面設定		準備物			
					
意図と工夫点 ペアで話し合い、対話的に学習を進めるように、配置する。		教具名 板書計画 意図と用途 活動内容とめあてを確かめるように、活動とめあて、顔写真カードを提示する。	教具名 モニター、タブレット端末 意図と用途 動画で話した内容を確認できるようにするもの。	教具名 サイコロ 意図と用途 意欲的に話したり聞いたりできるように、テーマや顔写真カードをはったもの。	
準備物					
					
教具名 活動写真、文字カード、視点ケース 意図と用途 視点ボード (I) 意図と用途 自分のしたことを「いつ・どこ・誰・何をした」の視点で話したり聞いたりするとき視覚的に確かめるようにするもの。		教具名 ワークシート① 意図と用途 活動内容とめあてを、確かめたり活動を振り返ったりするもの。	教具名 ワークシート② (MO) 意図と用途 全体と中心を関連づけて話の内容を構造的に確かめるもの。	教具名 ワークシート③ (HPQR)、付箋 意図と用途 「はじめ・中、終わり」の構成を考えて、相手に伝わるように、付箋メモを並べ替えて使うもの。	教具名 書見台 意図と用途 聞き手に顔を向けて話せるように、発展のサイコロトークで使うもの。

(4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

		一次	二次							三次				
時数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
I	知技	場面	自分のしたことについて、教師に提示された写真やイラストを見て											
		できた姿	「何日」や「何時」と		「何の後」と	「何の前」と	「朝、昼」と	「朝、昼、夜」と	「何日」「何時」「何の後(前)」などと	「何日」「何時」「何の後(前)」 「朝、昼、夜」などと				
	思判表	具体的状況	『サイコロトーク』で「いつ・どこ・誰・何をした」の内容が含まれる写真やイラストを見てその内容を話すとき											
		表出像	教師から「いつ」と問われて、 日にちや時刻		～の後と答える	～の前と答える	内容に応じて朝昼と答える	内容に応じて朝昼夜と答える	日にちや時刻、順序を答える	日にちや時刻、順序、内容に応じた朝昼夜を答える				
M・O	知技	場面	教師の				教師や友だちの							
		できた姿	簡単な話を聞いてどのような話が問われたとき											
	思判表	具体的状況	『サイコロトーク』で自分のしたことを話すとき				『サイコロトーク』で自分が見たことを話すとき				『サイコロトーク』で自分のしたことや見たことを話すとき			
		表出像	サイコロの目の おいしい・かわいい おいしい・かわいい・びっくり おいしい・かわいい・びっくり・笑った										おいしい・かわいい・びっくり・泣いた	
H・P	知技	場面	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき											
		できた姿	ワークシートの「中」に事柄を 1つ挙げて それを見て話す 2つ挙げて いくつか いくつか											
	思判表	具体的状況	『サイコロトーク』で食材を美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき											
		表出像	美味しく食べる工夫、作り方、食品から相手に伝えたい事柄を 1つ 大豆と いくつか 牛乳と 米と いもと いくつか選んで 麦と 魚と 好きな食べ物を											
Q・R	知技	場面	相手に伝えたいことを「はじめ・中・終わり」の構成で話すとき											
		できた姿	「はじめ・中・終わり」の構成で		相手に伝わるいくつかの事例を「中」で				相手に伝わるいくつかの事例を関連づけて「中」で 事例メモを相手に伝わるように並べて話す					
	思判表	具体的状況	『サイコロトーク』で美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき、「中」で話す内容を											
		表出像	食材の		味の	見た目の	食感の	調理方法の	食材や味、調理方法、食感、見た目の 視点を考えて、その視点に合ったいくつかの事例を選んで関連づけて話す					
主体的な姿	粘り強さ 学習の調整	<input type="checkbox"/> 席に着いて、自分で課題を取りに行くなどして、活動を進める (I・M) <input type="checkbox"/> グループ活動や発表などのときに、自から手を挙げて活動したり発表したりする (全)												
		<input type="checkbox"/> やり直しに積極的に取り組んだり、提示された課題を最後まで取り組もうとしたりする (I・M・O) <input type="checkbox"/> 迷ったり間違えたりしたときに、前時までに取り組んだワークシートを見てやり直す (全)												
配慮的に扱う内容		<input type="checkbox"/> 主述の関係や助詞などの文法に関すること (M・O・H・P・Q・R) <input type="checkbox"/> 語彙の習得に関すること (全)												

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ			
	I	M・O	H・P	Q・R
1. 本時の活動内容とめあてを知る。	<p>○前時を振り返り本時に課題をもてるように、前時で自分や友だちが話した様子の動画を提示し、「どんなところがよかったかな」とことばをかける。</p> <p>○本時の活動に見通しをもち、めあてを確かめられるように、活動内容やめあて、顔写真カードを黒板に提示し、ボックスに取りに行ったワークシートに記入するか様子を見る。</p>			
2. 詳しく話すときのポイントを確認める。	<p>○詳しく話すときのポイントを友だちや教師と一緒に確かめるように、ボードや机を移動し課題プリントを取りに行くことを伝える。</p> <p>○自分のしたことについて教師に提示された写真やイラストを見て「何日」「何時」「何の後(前)」などと問い、日にちや時刻、順序を答えかようすをみる。</p> <p>・日にちや時刻を答えるが「～前」を答えない場合には、日にちや時刻が伝わったことを認め後、どのような「いつ」を問われているかがわかるように、文字カードを提示して、したことの前後を一緒に確かめて、もう一度、「何の前」と問う。</p> <p>・日にちや時刻を答えるが「～後」を答えない場合には、日にちや時刻が伝わったことを認めた後、どのような「いつ」を問われているかがわかるように、文字カードを提示して、したことの前後を一緒に確かめて、もう一度、「何の後」と問う。</p> <p>○問いに応じて答えることができたなら認める。</p>	<p>○自分で取り組み、その後、友だちと2人組になってよいところやよりよく相手に伝えるための話し方について確かめ合うようにする。</p> <p>○教師や友だちの簡単な話を聞いてどのような話か問い、話題の全体と中心が何についてのどのような話かを答えるか様子を見る。</p> <p>・話題の全体と中心がどのような話かを答えられない場合には、われたとき、話題の全体と中心がわかるように、話した内容の文章を提示し話題の全体と中心に鉛筆で印をつけて確かめることを伝え、もう一度、話題の中心がどのような話かを問う。</p> <p>○問いに応じて、活動の全体と中心を答えることができたなら認める。</p>	<p>○ワークシートと付箋を提示し、食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べ、付箋に書いたいくつかの事柄を並べるよう伝えて、様子を見る。事例メモを見ながら、相手に伝わる内容をいくつか挙げて「中」を話すか様子を見る。</p> <p>・食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べた事柄を付箋に書けない場合には、相手に伝えたい事例を挙げるとよいことがわかるように、調べた食べ物図鑑や検索した事柄の中で相手に伝えたいことについて問い、その事柄を付箋に書いて並べ、それを見て話すことを伝える。</p> <p>○ワークシートの「中」に事柄をいくつか並べてそれを見て話したら認める。</p>	<p>○ワークシートと付箋を提示し、食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べて付箋に書いたいくつかの事例を関連づけて並べるか様子を見る。事例メモを見ながら、相手に伝わるいくつかの事例を関連づけて「中」を話すか様子を見る。</p> <p>・いくつか並べた事例が関連づいていない場合には、いくつか並べた事例が関連づいていないことに気がつくように、ワークシートと付箋を見て確かめて、もう一度、事例メモを相手に伝わるように並べて話すことを伝える。</p> <p>・事例を相手に伝わるよう並べられない場合には、いくつかの事例を関連づけて話すように、いくつかの事例と事例が関連づいているかを問い、ワークシートと付箋を見て確かめて、もう一度、事例メモを相手に伝わるように並べて話すことを伝える。</p> <p>○事例メモを相手に伝わるように並べて話したら認める。</p>
3. 『サイコロトーク』で、自分のことや伝えたいことを話し、話した内容に対しての問いに答える。	<p>○『サイコロトーク』で話したり聞いたりできるように、</p> <p>○『サイコロトーク』で「いつ・どこ・誰・何をした」の内容が含まれる写真やイラストを見てその内容を話すとき、友だちに「いつ」と問われて日にちや時刻、順序などの「いつ」を表すことばを選んで問いに答えるかどうか様子を見て、</p> <p>・日にちや時刻を答えるが「～後(前)」を答えない場合には、日にちや時刻が伝わったことを認めた後、友だちに「いつ」と問われた順序などの「いつ」を表すことばを選んで問いに答えるように、文字カードを提示して、したことの前後を一緒に確かめて、もう一度、「何の後(前)」と問う。</p> <p>○友だちに「いつ」と問われて「～日、～時、～の後(前)」と答えることができたなら認める。</p>	<p>サイコロや聞き取りシートを提示し、話す人、聞く人、司会者の役を決めることを伝える。</p> <p>○『サイコロトーク』で自分が見たことを話すように伝える。サイコロの目のおいしい・かわいい・びっくり・笑ったのテーマから話題の全体を考えて、「理由・状況・様子・気持ち」などから話の中心を選んで話すか様子を見る。</p> <p>・テーマに沿った話題の全体と中心が繋がっていない場合には、話題の全体と中心のつながりを選べるように、テーマに沿った内容を確認めることを伝える。</p> <p>○テーマに沿った内容を話したら認める。</p>	<p>聞く人、司会者の役を決めることを伝える。</p> <p>○『サイコロトーク』で食材を美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき、美味しく食べる工夫、作り方、食品から相手に伝えたい事柄をいくつか選び、食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べて付箋に書きたいいくつかの事柄を並べて話すか様子を見る。</p> <p>・食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べた事柄を1つだけ話した場合には、事柄を話したことを認めた後、事柄をいくつか話すより相手に伝わることをわかるように、相手に伝わるようにいくつか事柄を話すことよいことを伝え、他に話したい事柄を問う。</p> <p>○麦と関連づけて話したら認める。</p>	<p>○『サイコロトーク』で美味しく食べる工夫を「はじめ・中・終わり」で話すとき「中」で話す内容を、調理方法の視点に関連づいていると考えて、視点に合ったいくつかの事例を選び、食べ物図鑑やタブレット端末でインターネット検索して調べて付箋に書きたいいくつかの事例メモを関連づけて話すか様子を見る。</p> <p>・調理方法の視点と事例が関連づいていない場合には、視点と事例が関連づいているかをもう一度確かめることを伝えて、関連づいている事例とない事例を問い、答えられたら認める。</p> <p>・事例を相手に伝わるよう並べない場合には、いくつかの事例を調理方法の視点に関連づけて話すように、いくつかの事例が関連づいているか確かめて、事例を相手に伝わるように並べて話すことを伝える。</p> <p>○見た目の視点といくつかの事例を関連づけて話したら認める。</p>
4. 本時を振り返り、次時へ期待をもつ。	<p>○本時の活動を振り返れるように、ワークシートの振り返りの欄に学んだことを記述し、その後、挙手して発表することを伝える。</p> <p>○次時へ期待をもてるように、次時の『サイコロトーク』で話すテーマや友だちに伝えたいことを考えることを伝える。</p>			